

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 橋本正巳
 新潟県山岳協会
 上越市南城町2-3-37
 TEL 025-524-7215

事務局 諏訪恵一
 長岡市高畑町610-10
 TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
 委員会代表 浅野亘寛
 TEL 0258-52-3998



須川からゴールへ力走の選手達

さる4月23日、妙高市の国際アウトドア専門学校内のインドアオーラで行われた、61回国民体育大会山岳競技の新潟県第一次(クライミング)予選会に引き続き、5月14日(日)上越市安塚区須川で新潟県第二次(縦走競技)予選会が行われた。須川生涯学習センター・キュービットパレール周辺を会場として行われた。残雪の為、コースの設定に苦慮したが、須川生涯学習センターに於いて12・30分開始式

第61回国民体育大会山岳競技会 新潟県第二次(縦走競技) 予選会開催される

が行われ、同所前を13・00スタート。集落内の特設コースを走り抜け、ゴール地点をグリーンパーク前のコース設定で開始されて全員無事に完走。15・00無事に縦走競技表彰式を行うことが出来た。

【大会成績】 ○縦走競技

- (会場・須川生涯学習センター)集落内コース(グリーンパーク)
- ・成年男子
 - 一位 樋口 大棋
 - 二位 村山 亮
 - 三位 片桐 健太
 - ・少年男子
 - 一位 仙田 健一

新潟県代表選手の選出は4月23日に妙高市の国際アウトドア専門学校で行われた、新潟県第一次予選会(クライミング)の上位選手と今回の結果を考慮。6月に行われる駒ヶ根の合宿や、加須クライミング大会の成果も充分考慮して慎重に選出される模様。

第42回自然保護研修会開催される

第42回自然保護研修会が5月20日(土)〜21(日)、阿賀野市の出湯 北都山友荘で行われた。

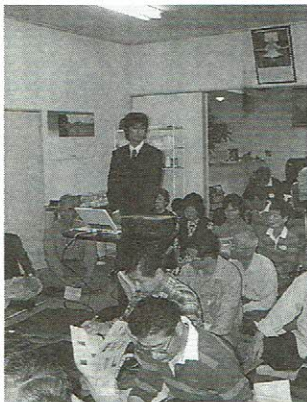
本間委員長の進行で遠藤副会長から6月環境月間に関連しての挨拶があり、本間委員長からも17年度からの事業の経緯報告があった。

県内山岳の水質の調査、トイレ問題、などの成果、問題点などを指摘された。なかでも南会津や飯豊、また県内の豊かで広大な広葉樹、ブナ林の保護のために、日本鳥類保護団体等との連携が実って、保護地帯となる方向との事。ながいスパンで話し合いを持った結果と思う。

今回の講演は新潟県立植物園より 久原 泰雅(くはら たいが)氏による「温暖化と自然保護」・「新潟県の絶滅危惧種」ということでスライドを使用した講演となった。演題に関連して重要なことに、「生物多様性」という事を挙げられた。

多様な生物が存在しているということ、それらは長い年月をかけて環境に適応しながら進化してきたもの。そして現在がいちばん『種』が多い時代をむかえているとの事だ。

生物多様性と山岳地における自然保護については、野生生物を保全することに対する意識は高まりつつある。しかし、保全のあり方について正しく理解されていないことも多く、中には逆効果を及ぼしかねない活動もある。生物は大陸の移動や地球規模の環境変化を受けながら長い年月をかけて、生きていくための特性を獲得してきた。ある生物を守るためには、『他』



久原 泰雅氏の講演

の環境で培われた『他』

とのさまさま『関係』を崩さないように気をつけなければならぬ。その為には、同種であっても他の場所で生育していたものを持ち込むべきではない。また、一度でも人の手による選別が行われたものも極力持ち込むべきではない。なぜなら、○生態的多様性（地球にある様々な環境）・種多様性（環境に生育する様々な種）・遺伝的多様性（種の中に含まれる様々な遺伝子）のレベルがあり、同種の植物でも地域によって、特性があるということだ。

○「生物多様性を保全する」その為に行うこと ◇帰化植物等の侵入の阻止・盗掘の防止・環境や生物同士の相互関係の調査・生物の多様性に対する人間の関与、影響の調査などが挙げられる。

希少な種を保全する際に行う事として、○自生地保全と栽培保全が考えられるが、種の保全は原則として自生地保全によって行われなければならない。絶滅した場合や多様性の回復が完全に困難な場合のみ、栽培保全により残されていた植物を自生地へ植栽することが出来、その際も種子から行うなど、人為的な影響が少なくないようにする事が望ま



宝珠山頂上にて

つけや登山者の靴裏より侵入する場合もあり、現状を把握し、原因を突き止める。オーバーユースによる問題はかなり深刻で、し尿処理の問題は環境の富栄養化が起き、植生の破壊が発生している。トイレ管理の徹底と管理のための有料化も手段の一つ。最新のバイオを駆使したトイレでも最近のオーバーユースを考えると、許容範囲をはるかに超えかねない。当然持ち帰り運動・携帯トイレの活用をする時点にきていると考えられる。

しい。中越地震による震災地に於いて、そのような状況下にあつた植物やセナミスミレ・オキナグサ・ミズアオイなども自生地保全の対策を施したとの報告をされた。

○山岳地における自然保護の対策として ・植生の破壊への対処 ・し尿処理についての対処 ・盗掘等による希少種の減少への対応 ・帰化植物の侵入への対応 などがあげられる。それらの原因を考えた場合、オーバーユース・林道等の工事によるものが多いと考えられる。工事などで異植物が侵入の恐れもあり、土壌は現地のものを用いる。吹き

ついでに親睦会では豚汁などの饗応もあり、各自持ち寄った銘酒で大いに盛り上がり、実のある研修第一日は終わった。

翌朝は、予定通りの起床、本日予定の宝珠山の登山口、草水口へ移動。当日の参加者もおおられて、延べ50人近い研修会参加者となった。大沢尾根樹林などを観察しながら、八咫柄山を経由して、8時過ぎには全員頂上に揃う。偶然、協会会員でもある柏崎山岳会の大倉 証さんが、新山協ニュース（17年11月号・第217号）でも紹介した、最年少で深田百名山を踏破した、お孫さんの由衣ちゃん同行で到着。中高年のアイドルということでしょうし、羨望。まもなく本間委員長の声がかりで頂上にて解散ということになる。今回も非常に参考になり、意義のある自然保護研修会だったと思う。北村理事、坂野委員から飯豊や、下越の山々の植生や情報などお聞きしながら、11時過ぎに草水の広い駐車場へ無事下山する事が出来た。晴れてきた青い空にフワフワ漂うも、豊かな阿賀野河畔の柳からの柳絮だった。

今回の研修会に参加されていて、実際に白山の小屋での携帯トイレの常備や、提唱されている矢筈山岳会の松尾弘氏からも貴重なお話を聞くことが出来た。

オーバーユースによる、登山道沿いに植生が破壊され、裸地が広がる現象。以前より憂慮されつつも無くならない盗掘など、希少種などの盗掘にたいしての法の整備など考えさせられ、実行しなければならぬと実感する研修会であった。

浅野 巨寛

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行業者第529号 JATA代理店 (株) 日本旅行業協会会員
本社 新潟県長岡市東区1713番地

http://www.uks.co.jp

- 長岡営業所 〒940-0064 長岡市東区1丁目3番5号 ☎ (0258)33-7123
一般旅行業取扱主任者 倉 隆樹
- 新潟営業所 〒950-0916 新潟県長岡市3丁目2番11号 ☎ (025)246-2266
一般旅行業取扱主任者 中島 賢

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー



パーマーク

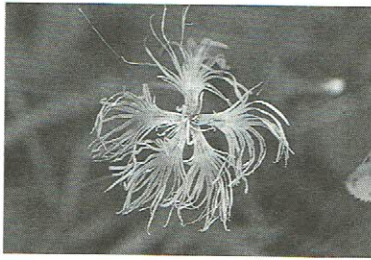
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200・FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

http://www.parrmark.co.jp

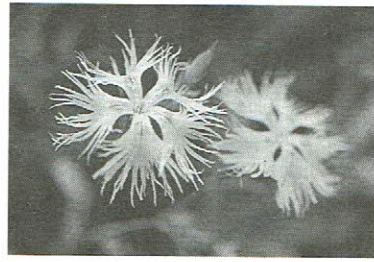
越後の山に見られる 変種植物

むささび会 加藤 明文

◆ ナデシコ属 Dianthus
④ タカネナデシコ



タカネナデシコ
白馬岳 (7月26日)



母種エゾカワラナデシコ
東ヌプカウヌプリ (8月11日)

母種はエゾカワラナデシコsuperbus「華れいな」で スイスアルプスにも産し「プラハト・ネルケ」と云う。花弁は広く切れ込みも多い。対する変種タカネは、切れ込みが細く、深く糸状に見える。
変種名 V. speciosus「美しい」。

同じ変種で低山帯には カワラナデシコが産する。 属名 dianthus はダイアナで処女神アルテミス女神の異称 (ギリシャ神話よりの名)

『やぶ道 ③』 200回歩こう

杉本 敏



昔の人は農作業で山奥まで入り込んで仕事をした。炭焼きもした。山へ入る時は、炭焼きは必携品であった。伸びた草や木の枝を刈り払って進んでいった。そこに山道が維持されていく要素があったのだろう。

なにかで読んだ、山道が道として維持されて行くのには、年間 200人以上が歩かないといけない。それ以下だと荒れてしまい、道の存在が分からなくなるとのこと。足下は踏みつけられ、脇の草は摘まれ、枝は折られて、道の骨格が出来上がってくる。
今登山道は、だいたい年一

回の草刈で立派な形態を保っている。だが人の通りが多いと、除々に荒れてくる。杖で穴を開け、雨で土砂を押し出し、V状に切り込まれてきている。泥化した道を歩くのを嫌って、脇を歩き表土を削って道幅を広げる。この現状は標高が高くなるほど荒れる方向になる。だからと言って階段に修復された道を歩くのは味気ない。

谷川連峰・三国峠や平標山なんぞ階段登りに出掛ける感じである。榛名山・ニッ岳雌岳に登ったら、階段の片側半分を、土砂を入れた袋で坂道状態にし、坂道登り、階段登りどちらでもご自由に、は良かった。
今ある道は何とか残していきたい。草で覆われた道を200回歩いてみんまで道にしようよ。

第45回

全日本登山体育大会開催要項

本年度の全日本登山体育大会は、福島県山岳連盟の主管

で吾妻山系、安達太良山系、磐梯山系にて開催されます。

要綱を案内致しますので多数の参加をお願いいたします。

◆目的 全国の岳人が集い、福島県の自然と共生をテーマに登山交流を通して登山技術の向上と相互の親睦を図ることを目的とする。

◆開催日時 平成18年10月13日(金)～10月15日(日)

◆日程

◆10月13日(金)

12:00 受付(福島グリーンパレス)

13:30 開会式(福島グリーンパレス)

14:30 講演「自然との共生」福島県鳥獣保護センター

溝口俊夫先生

16:00 オリエンテーション「福島県の四季」・参事会

総会

17:00 歓迎レセプション(福島グリーンパレス)

19:00 宿舎へ移動・宿泊

◆10月14日(土)

7:00 登山行動(各グループ別)

15:00～19:00 登山行動終了・宿舎へ移動・宿泊
10月15日(日)
7:00 下山行動・閉会式移動

10..30 閉会式(こむこむ館)
11..30 解散

◇登山コース・コース員数

◆吾妻 土湯コース 約100名

◆安達太良 沼尻コース 約40名

◆安達太良 岳コース 約80名

◆磐梯山コース 約80名

◇参加資格

(1) 都道府県山岳連盟(協会)より推薦された者

(2) 日本山岳協会の役員、参与および賛助会員

(3) 地域の登山普及を図るため特に認めた者

◇参加費用

三万円(宿泊費・大会中の全食費・輸送費・保険料を含む)

◇問い合わせ・申し込み

総務委員長 七沢 恭四郎
〒943-0154
上越市稲田4-12-31

TEL/FAX 025-523-7661

◇申込締切

平成18年7月10日

お知らせ

第9回新潟カップが

10月22日(日)に開催

県内のクライミングの普及とレベルアップを目的として、新潟カップクライミングコンペが10月22日、妙高市の国際アウトドア専門学校で開催される。当初9月10日に開催を予定していたが、会場の都合で開催日の変更となったもの。尚、要綱は次号にて発表の予定。

賛助会費のお願い

昨年は県山協の事業について、参画して頂き、また賛助金にもご協力を賜りありがとうございました。

今年も二巡目新潟国体に向けて、左記の事業について邁進するよう務めたいと思っております。各位におかれましてはご理解と趣旨ご賛同の上、多数のご入金をお願い申し上げます

関する事項
2 県体育協会登山競技に関する事項

3 日本山岳協会に関する事項

4 登山施設の改善促進及び技術指導に関する事項

5 遭難対策に関する事項

6 加盟団体の主管する事業に対する相互協力に関する事項

7 その他本会の目的達成に必要な事項

◆賛助会費

年額 10,000円

◆賛助会費の振り込み先口座

☆郵便振替 新潟県山岳協会 ☆口座番号 006500812040

☆銀行口座の場合

第四銀行長岡市役所前支店 ☆普通預金 1179492

名義は新潟県山岳協会

◆賛助会員入会のお礼

次の皆様から、ご入会、ご継続を頂きましたので、ご報告させていただきます。

坂井 厚(峡谷山岳会)、

森 庄一(長岡HC)、大滝丹藏(高田HC)、桜井正一(新潟楽山会)

継続状況です。(敬称略、順不同)
新潟県山岳協会

会長 橋本 正巳

理事長 片桐 一夫

総務委員長 七沢恭四郎

編集ことうき

▲プロスキーヤーの三浦雄一郎さんが70歳をこえた年齢で世界最高峰エベレストに登頂した。しかもエベレスト最齢登頂記録との記事に、羨望し驚いた記憶はまだ新しい。記録というと破られるためにあるようで、先日の記事には荒山孝朗さんが70才7ヶ月と13日で三浦さんの記録を3日上まっけて登頂した。記録の意識などなかったのだから敬意を表する。とかく、商業登山と揶揄する声も聞く。だが高さに挑む事とは、本人の強靱な意志とトレーニングに対するひたむきさだ。誰にでも出来るものでもない。

▲県山岳協会 2004年

曲阿加吉瑪峰の遠征隊員だった、安野立子さんも大活躍だ。

曲阿加吉瑪峰遠征帰朝後、半月で出発、チョ・オユン登頂には驚嘆したが、今回シシャバ

ンマ登頂の写真付手紙を戴いて再び驚嘆。新山協旗が輝いている。とにかく、8,000m峰2座登頂はすごい、おめでとう。曲阿加吉瑪峰のABCでは、ママと呼ばれ、ドクターとも呼ばれ、馬のジョンや、コックの安さんとの交流が目につく。

▲先日の高度順化の為の富士登山、頭痛と酸欠でヘロヘロ状態だった男の階段でのトレーニング。吹き出る汗、緑濃い朝日の中の白い風車、「ヤマボウシ」だった。(会報編集 浅野)

登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)